

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	287230045		
法人名	有限会社 黎明		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	〒673-0414 三木市芝町4番20号 (電話)078-919-0200		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年6月9日

【情報提供票より】 (20年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 4人, 非常勤 12人, 常勤換算	8.53人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	17,500 円	
敷 金	有 (120,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	120 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	30 円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2	要介護 2	4		
要介護 3	2	要介護 4			
要介護 5	1	要支援 2			
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 島田医院	歯科 横山歯科医院
---------	---------	-----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

道路を挟んで古くからの町並みと新興住宅地が立ち並び、周辺は田園風景の残るのんびりとした環境の中で、地域住民へ認知症の理解を深めてもらえるように常に地域に向けて情報を発信すると共に、入居者と一緒に積極的に地域に出て行く機会を持つようになっている。入居者には、「あけぼのが私の住み家」との思いで最期まで安心して暮らしていけるように重度化や見取りのケアについても医師・家族・職員との話し合いの機会を多く持つようになっている。また、職員には学習会を開き自信を持って介護ができるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価後、基本理念を見直し地域密着型としての理念を追加し、全職員で共有すると共に、地域に向けて理解と協力が得られるように継続的な働きかけを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	職員が2週間かけ協議しながら自己評価を記入し、管理者がまとめた。自己評価作成の過程で日々の介護を振り返り、質の向上につなげる機会になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営会議を4ヶ月の1回開催している。メンバーは区長・老人会会長・民生委員・住民代表・包括支援センター・家族の代表・入居者で構成されている。運営推進会議では19年度の評価結果の報告・情報交換を行い、認知症の理解が得られるよう努力をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族には1ヶ月に1回は支払いを兼ねてホームに来てもらっている。家族訪問時の職員の受け入れ態度や個別報告を丁寧に行うことで、家族からの要望や意見が聞ける機会作りを努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	利用者の外出の機会が多いが、周囲はマンションが多く、地域との交流はむづかしい状況である。自治会には入り、地域の行事の案内等も届けられており、ホームの存在は浸透してきている。職員は地域住民との交流を願っている。月に1回利用者と共に施設周辺の道路の空き缶やゴミ集めをしている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険改正に伴い改正点を職員に説明し、理念の中に「地域住民との交流の下で」の文面を追加しパンフレットにも表示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月・木曜日の朝礼時に理念を職員全員で唱和し理念の共有を図っている。また、名札の裏に基本理念がコピーされている。		日々の業務の中で、事ある毎に理念に立ち戻り、ケアに反映されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の外出の機会が多いが、周囲はマンションが多く、地域との交流はむづかしい状況である。自治会には入り、地域の行事の案内等も届けられておりホームの存在は浸透してきている。職員は地域住民との交流を念願している。月に1回利用者と共に施設周辺の道路の空き缶やゴミ集めをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が2週間かけ協議しながら自己評価を記入し、管理者がまとめた。自己評価作成の過程で日々の介護を振り返り、質の向上につなげる機会になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議を4ヶ月の1回開催している。メンバーは区長・老人会会長・民生委員・住民代表・包括支援センター・家族の代表・入居者で構成されている。運営推進会議には19年度の評価結果の報告・情報交換を行い、認知症の理解が得られるよ努力をしている。地域の役員の方々は多忙であるため夕方からの開催になっている。</p>		<p>ホームから地域に向けた発信として認知症への理解を深めていく事を目標に上げ、2ヶ月に1回の運営推進会議開催を期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>距離的に近いこともあり市役所には度々足を運び相談している。今後も相談・連絡の機会を持ち、よい関係作りを継続したいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には1ヶ月に1回は支払いを兼ねてホームに来てもらっている。「短信欄」は担当職員が記入している。「あけぼののだより」を3ヶ月毎に発行し、あけぼののモットーである「のんびり・たのしく・自分らしく」が掲げられ、施設の行事の報告や認知症のついて掲載している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・苦情等の窓口を明記し、玄関・廊下に掲示している。又、面会時やケアプランの説明の際には、必ず家族から要望や意見を聴いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年後半まで職員の退職がなく安定していたが、個人的事情で職員の離職が続き厳しい状況が続いていが、現状打開に向け努力している。退職の際は1ヶ月前に申し出ることを義務づけ、約2週間新旧の職員が重複して業務に携わり、ケアの円滑な引継ぎに努めている。</p>		<p>職員の離職によるダメージを最小限に留めるため、日ごろから利用者と全職員の馴染みの関係作りがのぞまれる。また職員のスキルアップへの支援により職員の定着への取り組みを期待する。</p>
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県からの研修案内を職員に提示し、希望があれば有給で参加している。伝達講習を行いホームに還元してもらう努力をしている。内部では勉強会を年2回夜間に行っている。第1木曜日には事例検討会を行いケアの内容を検討している。</p>		<p>内部・外部研修の年間計画を立て、職員が学びたいテーマを取り上げて職員中心の勉強会の継続を期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内にグループホームは4箇所しかなく、新しく出来るグループホームからパンフレットの請求はあったが現在は交流がない。</p>		<p>グループホーム間の連携作りについての協力が得られるよう働きかけることを期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームとしては、見学に来てもらうなど、徐々に馴染んでもらえるように努力をしているが、家族の意向で決定される事が多い。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の残存能力・力量を確認しながら、日々の生活の中で、職員と共に調理・掃除・手作業・作品作りなどをとり入れ協力しあっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に利用者・家族から聴取したアセスメントにより、生活歴や本人のいきることなどを把握している。その後は、6ヶ月に1回担当者が利用者・家族と面談、希望・意向を聴取し、また、利用者との日々の会話の中で趣味・好み・希望・意向などを把握している。意思の疎通が困難な利用者は日常の言動から汲み取り支援している</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が生活過程判定用紙を利用して、アセスメント要約書をつくりケアプランを立てている。ケアプラン記録・生活記録を計画作成担当者と受け持ち、職員で話合っている。職員の勤務表にケアプラン評価欄や家族と話し合う期間が組み込まれている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間単位の記録様式を作成し、「ケアプラン記録」には介護計画にある援助目標の遂行状況や効果などを記録し、「生活記録」には毎日の利用者の身体状況や生活状況などを記載し、日々ケアプランとの比較をおこなっている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり、24時間の健康管理を行い、状態変化への早期対応や医療処置を受けながらの生活の継続に配慮している。また、通院同行の支援も職員がおこなっている。		
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や、契約時に家族の意向を聞き、かかりつけ医への受診を希望する利用者には継続出来る様にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについてホームの方針を統一する為に指針を作成している。終末期医療については、かかりつけ医、家族、職員と話し合いを持ち同意書に主治医、家族の署名をもらっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時、個人情報の保護については雇用契約書を交わし確認をしている。排泄時や更衣の際などには特に羞恥心への配慮に心がけている。</p>		<p>個人情報の取り扱いなどについては、年間計画を立てて研修、勉強会などで職員への周知徹底を図るようにする。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入所時に綿密なアセスメントを行い、一人ひとりの生活歴からその人の日々の暮らしぶりを丹念に拾い上げ、以前の暮らしが継続出来る様に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>カロリー計算された献立で食材だけが運ばれ、職員が調理をおこなっている。盛り付けや片付けなどを職員と一緒に行き、同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気づくりをしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的な入浴回数は決まっているが、利用者の希望する時間や入浴したい日を聞いて柔軟な対応をしている。又、同性介助を心がけ羞恥心への配慮に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	半年毎に身体、生活状況のアセスメントを行い、利用者1人ひとりの生活シートに記載し、毎日の暮らしの中でその人の出来ることを見出し、力量が発揮出来る機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は日光浴やホーム周辺を散歩したり、近くのお店におやつなどを買いに行くなど、少しでも外に出られる機会を持つようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上死角となる部分が多い為玄関は施錠しているが、利用者の動向を察知できるように玄関横に事務所を設けて人を配置し外に出たいときには直ぐに対応するなど、閉塞感を持たないように工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回は消防の避難訓練を利用者に説明し昼夜を想定して実施している。災害時の備えとしては飲料水のペットボトルを6本程度準備している。		火災の際は外に向けて火災報知機がなるようになっているが、日頃から近隣への声かけを行い協力を呼びかけるようにすることが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事量と水分量は必ず毎食時チェックし「生 活記録」に記載し、身体状況の変化の早期発 見・体調管理に努めている。水分摂取量は、 食品別に量が分かる表を作り正確な量が記録 できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、調理の準備の音やご飯やおかずの炊 けるにおいがするなど生活感を感じることが できる空間であり、その他の共有空間には季 節の花々が置かれ居心地の良い落ち着ける場 所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ホームで備え付けのもの以外は利用者が以前 から使い慣れたものが持ち込まれ、1人ひと り個性的な居室となっている。畳などの希望 にも添えるように準備している。		

 は、重点項目。